

私はヒガンバナが大好きです。花姿の美しさと、秋のお彼岸の時期に突如として花茎を伸ばしてくる一途さが素敵です。今年のカンバナの開花は猛暑のせい、お彼岸の頃から2週間ほど後になりました。私は、数年前に医院の周囲に赤と白のカンバナの球根を所々に植えました。それ以来、毎年秋の訪れをワクワクしながら待っています。今年、赤のカンバナが3つ咲いただけでした。白花は全く咲かず残念でしたが、来年に期待します。花が咲かなくても晩秋に青々とした葉が出てきます。葉の出る頃には花がなく、花が咲く頃には葉がないので韓国では相思華と言うそうです。日本名は色々ありますが、「葉見ず花見ず」とも言うようです。中国からの帰化植物で、曼珠沙華(マジュウシャ)とも言われます。日本でのヒガンバナの名所は埼玉県日高市の巾着田です。群生するヒガンバナはさぞかし壮観でしょう。一度は見に行きたいと思います。



【最近目立つ病気】

全年齢でマイコプラズマ感染症、乳幼児でRSウイルス感染症が流行中です。マイコプラズマ感染症の診断は確実な迅速診断法は今のところないので、症状から推測するしかありません。肺炎になっていると長びきます。これまで有効だったクラリスロマイシンという抗生剤に耐性のマイコプラズマが増えているため、流行が遷延しています。乳幼児のRSウイルス感染症については後述します。

気温が下がってくると例年どおりウイルス性胃腸炎が目立ってきました。ノロウイルス、ロタウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルスが代表的なウイルスです。ノロウイルスがその名前から有名になってしまいましたが、小児科領域で最も怖いウイルスはロタウイルスです。脳炎、脳症などの合併症や重症の脱水症を惹き起こします。ロタウイルスの流行は近年3～5月です。すべてのウイルス性胃腸炎には特効薬はありません。安静にして休養し水分補給に努めるしかありません。薬剤は整腸剤や胃薬などの対症療法薬となります。

手足口病、おたふくかぜ、水痘、溶連菌感染症もみられています。

【RSウイルス感染症】

特に乳児の呼吸器感染の主要なウイルスです。乳児の半数以上が1才までに、ほとんどの人が2才までに感染し、その後も一生の間再感染を繰り返すウイルスです。感染のたびに症状は軽くなります。問題となるのは生後半年未満、特に3ヶ月未満の乳児です。この時期は母体からの移行抗体があるのですがRSウイルスにおいては下気道の炎症を中心とした重篤な症状を惹き起こします。我が国ではRSウイルスによる細気管支炎や肺炎のために毎年約2万人の入院があるとされています。特に低出生体重児や心・肺系の基礎疾患を有する児や免疫不全を有する児はしばしば遷延化し重症化しやすく、無呼吸による急性呼吸不全、ADH異常分泌症候群の合併による電解質異

常、急性脳症を起こす危険があります。無呼吸は、基礎疾患がなくても生後1ヶ月未満の新生児にみられやすく突然死の原因とも言われています。

診断は、迅速診断キットによる抗原検出が有用です。当院でも新生児や乳児で、症状からRSウイルスが疑われる場合は入院の判断材料として積極的に検査を行っています。

初感染の年齢時期によって症状に大きな違いがあるため以下のような方には予防の注射が保険適応となっています。ただし当院のような一般の診療所では取り扱っていませんので小児科のある病院にお尋ねください。

抗RSウイルスヒトモノクローナル抗体(パルビスマブ、商品名シダズ)の投与対象となる赤ちゃん

- お母さんのお腹の中にいた期間が28週以下：RSウイルス流行開始時に生後12ヵ月以下のお子さん
- お母さんのお腹の中にいた期間が29～35週以下：RSウイルス流行開始時に生後6ヵ月以下のお子さん
- 過去6ヵ月以内に気管支肺異形成症の治療を受けたことがあり、RSウイルス流行開始時に生後24ヵ月以下のお子さん
- 血行動態に異常のある先天性心疾患(CHD)をお持ちで、RSウイルス流行開始時に生後24ヵ月以下のお子さん



【4種混合ワクチンのこと】

ポリオ生ワクチンに代わって不活化ポリオワクチンが使われるようになったばかりですが、従来の3種混合ワクチンに不活化ポリオワクチンを混合した4種混合ワクチンが11月1日から使えるようになりました。テトラビックとクアトロバックという商品名で2社から発売されました。子宮頸がん予防ワクチンとは異なり

2社の製品の内容は、ほぼ同一ですので計4回の接種で混在しても問題ありません。また、3種混合ワクチンと不活化ポリオワクチンとも互換性があります。しかしながら、4種混合ワクチンの製造量が未だ少ないので3種混合ワクチン+不活化ポリオワクチンで接種してきた方が残りの回数を4種混合ワクチンに変更することは現実的には難しいと思います。

【ワクチンを受ける時の注意】

ワクチンはできるだけ体調の良いときに受けたいものです。

麻疹・風疹・おたふくかぜ・水痘に罹った後は、かかり始めから1ヶ月間はワクチン接種は控えましょう。突発性発疹症に罹患後は発疹消失から2週間は控えましょう。その他の感染症は解熱後1週間は控えましょう。

治りがけの多少の咳や鼻水は問題ありません。熱性痙攣後は1ヶ月間は様子を見るのが一般的ですが、個々のケースで対応が異なりますので、かかりつけ医にご相談ください。

MEMO



- ☆大手町の夜間急病診療所(Tel:222-0099)では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は11/22・11/29・1/31の予定です。また、1/13は当番医の予定です。
- ☆麻疹・風疹ワクチンの第3期(中学1年生)、第4期(高校2・3年生)を実施しています。必ず接種しましょう。
- ☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン(水痘・おたふくかぜ・インフルエンザ)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。
- ☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

